

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標

「児童、教職員、地域住民など、そこに関わるすべての人が、共に学び合い高め合う学校づくり」
 知)先生から先学へ:教職員が率先して「自ら進んで学ぶ姿勢と手法」を示し、児童や地域に及ぼすこと。
 徳)行動する道徳へ:自分ごと化できる具体に学び、態度と行動に変容をもたらすこと。
 体)意思ある心身へ:目的意識を持って健康づくりに取り組むこと。
 公)自分でつくる自分のまち:地域社会への参画意識を醸成し、それに基づく公共心を育てること。
 関)共に生きる決意:性別や国籍、障がいの有無などを超えるコミュニケーション力を育てること。

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
豊かな心		自分自身を客観的に見る視点を持たせ、個性を認め合い、考えを尊重し合い、互いに共存していこうとする態度を育む。	道徳教育・たてわり・クラブ・異学年交流、さらに地域や他校などの交流活動を通して、幅広いコミュニケーションを体験すると共に、学年に応じたためあてをもって取り組む。
	担当		

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

生活意識に関する調査結果からは、生活の軸線が家庭内に偏り、地域とのつながりが希薄になっている様子が伺える。学校が両者をつなぐ役割を果たすと共に、家族や友だち以外の他者との関わりを増やしていくことで、より多角的に自分自身を客観視する視点を育むことが求められている。



3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

指針1 「特別の教科道徳」の充実 ※道徳教育全体計画・別葉 カリキュラムの作成

- ・全学級の道徳の授業を家庭・地域に年1回以上公開する。
- ・系統的に道徳的価値に触れられるように、独自の道徳のカリキュラム・資料をつくり、積極的に活用する。
- ・道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるよう「私たちの道徳」を積極的に活用する。
- ・家庭や地域での様子(あいさつ等)について、アンケートで子どもの実態把握を行い、道徳の時間に生かす。 【視点1】

指針2 体験学習の充実

- ・「たてわり活動」「児童会活動」「クラブ活動」などの異年齢集団活動を、より自主的、意欲的に行うことができるようにする。 【視点3】
- ・学校生活をよりよくするための組織である「係活動」や「当番活動」に自主的に取り組むことができるように、自分たちで計画を立て運営できる力を育成する。
- ・小学校での学びを見通したうえで活動のねらいを設定し、校外の豊かな自然や文化に触れる「集団宿泊体験」を充実させる。